

人権協地区委員会活動の紹介

11/15 西山田地区研修会報告

開村30周年をむかえた神戸市「しあわせの村」を訪ねよう！

神戸市「しあわせの村」は高齢者や障がい者などハンディキャップのある人に総合的なサービスを提供し、自立と社会参加・社会復帰を支援され、またすべての市民がともに生きる社会の実現をめざす「ふれあい事業」を推進された総合福祉ゾーンです。

広大な緑の敷地の中には、障がいのある方々の就労支援施設、重症心身障がい児（者）のための施設、認知症高齢者専用の介護施設などのたくさんの福祉施設、またリハビリ病院などの医療施設、シルバーカレッジなど、あらゆる生活に密着した施設が充実しています。村内をバスで見学した後、研修室で、「しあわせの村」の理念やあゆみなどを学習しました。



午後は、「みんなにやさしい」というUD（ユニバーサルデザイン）スポットツアーに参加し、車椅子対応の「レイズドベッド」や指で触って感じる「触地図」、視覚障がい者歩行誘導マットなどを体験し、30年前にすでにUDを取り入れられていたことに感心しました。

豊かな緑の中で自然を満喫しつつ、障がいのある人もない人もみんなが、あたりまえに一緒にすごせる「しあわせの村」のやさしさに触れた一日でした。

西山田地区委員会 副代表 久野 恵里子 さん

1/19 藤白台地区委員会活動報告

「健康寿命を伸ばすコツ」講演会

1月19日（日）青山台地区高齢クラブ青寿会連合のご協力をいただき、『健康寿命を伸ばすコツ』と題する講演会を開催しました。

健康のお話なら中村雅一先生にお願いしようという青寿会の方々は熱望しておられました。講演会のふたを開けてみると、開会前には満席の87名に達しました。

いよいよ100年時代の到来といいますが、人間80歳をこえると、部品の一つや二つが故障するのは至極あたり前のことだそうです。頭から足の爪先まで多くの部品が故障しないはずがないのです。故障すれば治せばいいのです。治し方が問題で、できるだけ手術や劇薬は避けたほうがよいようです。



ただ、悪くなりそうな器官については、注意深く予防措置をしておくほうがよいそうです。心・肝・腎の臓器はそれなりに簡単に予防ができますし、うつ・認知症は早期の診療によって症状の悪化を防ぐことができます。

話がはじまると、次第に大きな拍手と、楽しい笑い声をはじけていました。参加された方々の期待通りのお話だったのでしょう。

新型コロナウイルスが世界的な広がりを見せていますが、人の生命に関わるかどうか人権問題の基本になることを確信しています。高齢の方々が、健康寿命を伸ばして人生を謳歌されることを心から祈念します。

藤白台地区委員会 代表 立山 清弘 さん

あなたも人権啓発推進委員になりませんか！

人権啓発を目的に、各地区でいろいろな活動が行われています。あなたも人権啓発推進委員になって、一緒に活動しませんか。下記の人権協事務局までお問合せください。

発行/吹田市人権啓発推進協議会

事務局/吹田市 市民部 人権平和室内 〒564-8550 吹田市泉町1-3-40
電話 06-6384-1539 FAX 06-6368-7345
E-mail suitajinken@wi.kualnet.jp



No. 48
令和2年(2020年)3月

— 2020 —

憲法と市民のつどい

～地域から、心をつなぐ人権の輪～

入場無料
手話通訳あり



日時 5月23日(土) 13:30～15:30 (開場 13:00)

場所 大和大学 講義棟 1階 大講義室A(C102講義室)

講演

「ありのままのあなたでいい・・・ ～育てよう子どもの肯定感～」

講師 みやもと まさはる 宮本 延春 さん (エッセイスト・作家・元高校教師)

■プロフィール

1969年、愛知県生まれ。

生まれてすぐに養子に出され、血縁関係のない家庭で、父親からは愛情を感じられずに育つ。小学生の低学年からいじめが始まり、学校嫌いが勉強嫌いにつながる。中学ではオール1となり、いじめを苦に自殺未遂を経験。中学を卒業するとき、漢字は自分の名前しか書けず、数学は九九が二の段までしか言えず、英語は知っている単語が「book」のみという落ちこぼれとなる。

進学できず見習い大工として働き始めるが、16才で母を亡くし、18才で父を亡くし、兄弟も親戚付き合いもなく、天涯孤独となる。極貧の生活を経験して、23才のときアインシュタインロマンというテレビ番組を見たのをきっかけに、物理学に興味を持ち、夜間定時制高校へ進学し、名古屋大学に合格し、大学院まで進み、母校の教師となる。

2007年、教育再生会議委員に就任（～2008年1月）。

現在は、自閉症の我が子をケアしながら、講演や執筆活動を通して、子どもや大人を元気にしたいと、毎日を励んでいる。

吹田市人権啓発推進協議会「代表研修会を終えて」

代表研修会実行委員長 津田 郁夫

1月18日（土）暖かな日より恵まれた中、市役所4階の全員協議会室で44名が参加する、代表研修会が行われました。

大阪教育大学、教職教育研究センター教授の、岡田耕治先生に「子どもたちの笑顔のために、地域ができること」と題した講演を頂き、その後、グループ討議をする形式で実施されました。

— 昨年の過去：「差別の歴史」、昨年の現在：「フィールドワークする」、そして今回の、未来（今後）：「子どもたちの明日のために」と、シリーズにした3本目で、3年間の集大成となるものでした。

岡田先生のお話は、沢山の本の紹介をいただき、考える方向を「自分たちができる事は何だろう」という気持ちにさせてくれました。終わりに「地域連携30のアイデア」の資料を頂き、すぐさまグループ討議に入りました。各地区での実践やアイデアを交換し合って、1人の代表を残してほかの人は、他のグループに散らばって情報収集する。そしてまた、元のグループに戻って収集した情報を交換し合うという手際のよい方法で行われました。

あっという間に時間がたち、心の中には、何か自分たちの地域でしてみたい気持ちで一杯になる、その様な力を与えてくれる研修会でした。



2020年7月～に日本で再びオリンピック*パラリンピックが開催されます。

1964年初めての東京五輪で、当時、学校で五輪音頭を踊ったことを、懐かしく思い出される方もおられると思います。日本国の戦後復興の象徴でもあり、毎日、テレビで外国選手の活躍に驚き、日本選手に声援を送ったお祭り騒ぎの、熱い東京五輪でした。

「近代オリンピックの父」クーベルタン男爵によって提唱された「オリンピズムの根本原則」では、オリンピックは人権に配慮したスポーツ大会であることが謳（うた）われています。再び、東京五輪を迎えるにあたり、「オリンピズムの根本原則」を再考したいと思います。

人種差別

1904年 第3回セントルイス大会

公式競技とは別に「人類学の日」という競技会がおこなわれました。オリンピックに参加できない非白人の運動能力を研究する機会として実視し、当時の白人至上主義の一端をうかがわせる、近代オリンピックの汚点の一つとされています。

1936年 第11回ベルリン大会

当時のナチス政権はユダヤ人の迫害などの人権差別政策を進めていたので、アメリカやヨーロッパでボイコット運動が起こったり、ユダヤ人選手が参加拒否を表明したりしました。大会成功の為、一時的に迫害政策を緩め、体面を保ちました。しかし、大会後、迫害を再開しポーランドに侵攻し、第二次世界大戦が始まりました。

1964年第 18回東京大会

1968年第 19回メキシコシティ大会

1976年第 21回モントリオール大会

南アフリカ共和国で実施されていたアパルトヘイト(有色人種差別・隔離政策)に対して1960年頃国内外で反対運動が盛んになり、東京大会では同国の参加は認められませんでした。メキシコシティ大会が招待した際には、反発したソ連ほか多くの国が大会への参加をボイコットしました。また、ニュージーランドのラグビーチームの南アフリカ共和国への遠征を巡り、アフリカの22カ国がボイコットしました。

オリンピックをはじめとした国際的な圧力もあり、南アフリカ共和国は1991年にアパルトヘイトを撤廃し、1992年第25回バルセロナ大会から復帰する事が出来ました。2000年第27回シドニー大会では先住民族であるアボリジニへの配慮を見せ、世界に発信し感銘を受けました。

しかし、世界では民族紛争が続く人権が侵害され、未だ問題は山積みですが人権差別解消に向けた様々な努力の一翼として、オリンピックの力に期待したいです。

女性

◆女性ゼロの第1回オリンピック

1894年に結成された国際オリンピック委員会 (IOC) は、貴族・政治官僚・資本家で構成されました。クーベルタン男爵を筆頭に構成メンバーの大半は家父長制的女性観を持っていました。女性は弱い性とされ、男に従属し、健康な子どもを産み育てることを期待する人々でした。

したがって、1896年第1回アテネ大会では表彰式のコンパニオンとしてのみ女性の参加を認め、競技には参加せなかったのです。2回大会には女性が参加したとはいえ、テニス・ゴルフだけで、参加者も22名、しかも正式参加には入れられなかったのです。このような女性蔑視(べっし)、女性排除の状態は1920年の第6回アントワープ大会まで継続しました。

◆女性の陸上競技参加は第8回大会で実現

1920年前後に、女性の活動家たちは「アメリカ女性陸上競技協会」(1917年)、「フランス女性スポーツ連盟」(1918年)、「国際女性スポーツ連盟」(1921年)を相次いで結成。男性による男性のための「オリンピック」から女性が排除されていることに抗議し、女性参加を要求しました。拒否はされましたが一定の効果はありました。こうし

オリンピック



パラリンピック と人権

て生まれたのが1922年の第1回女性オリンピックでした。ここでは陸上競技が中心となり、2万人の観戦者が集まり、18の世界記録が生まれたのです。

IOCはこれらの成果を無視する訳にはいけなくなり、1924年の第8回パリ大会ではじめて女性の正式参加を認めました。しかし、陸上競技への参加は認められず、フェンシング・テニス・ゴルフ・アーチェリー・水泳だけの競技をしたのです。

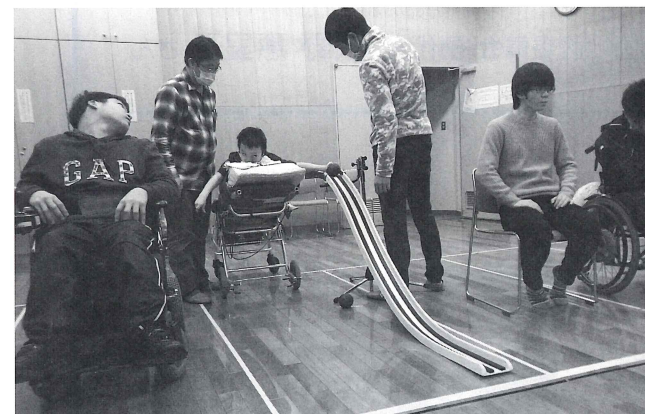
1926年第2回女性オリンピックはIOCによって妨害され、オリンピックの名称を使えず、「国際女性競技大会」に改名し実施されました。

1928年第9回アムステルダム大会で、はじめて女性に陸上競技への参加が認められました。この大会に出場した人見絹江さんは、日本人女性として初のオリンピック参加者で800m走で2位となりました。



日本人初のメダリスト 人見絹代さん

障がいのある人とスポーツ



ランプを使って投球する
さいとうたくまさんとボッチャの会のみなさん

〈東京パラリンピックとボッチャ〉

2020年8月25日から9月6日まで、第16回夏季パラリンピック(22競技537種目)が、日本の東京で開かれます。

パラリンピックの注目種目の「ボッチャ」を紹介しましょう。

ボッチャは、ヨーロッパで生まれた重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障がい者のために考えられたスポーツで、パラリンピックの正式種目です。

ジャックボール(目標球)と呼ばれる白いボールに、赤・青のそれぞれ6球ずつのボールを投げたり、転がしたり、他のボールに当てたりして、いかに近づけるかを競います。障がいによりボールを投げるができなくても、ランプ(勾配具)を使い、自分の意思を介助者に伝えることができれば参加できます。

〈アダプティット・スポーツとしての「ボッチャ」〉

障がいのある人も、そうでない人も、いっしょに同じ目線で楽しむスポーツ、それを『アダプティット(それぞれに応じた)・スポーツ』といいます。地域でスポーツを楽しむとき、「競技スポーツ」で勝ち負けを競うのではなく、『アダプティット・スポーツ』の目線でスポーツを楽しむことが何よりも大切になります。

「吹田ボッチャの会」でボッチャの普及にとりくまれている「あいほうぶ吹田(吹田市立障害者支援交流センター)」の理学療法士・松田忠司さんにお話をうかがいました。

「障がいによってはボールを手で投げることはできません。それでも、ランプを使え



吹田ボッチャの会・松田忠司さん

ばボッチャに参加できます。たとえば、4月から中学生になる斎藤功真さんは自分の意思とは関係なく手足に緊張が入り、はじめはランプの上のボールを押すことさえできませんでした。しかし何度も何度も挑戦するうちに、ある日、ランプの上のボールを押すことができたのです。みんなで『できた!』の喜びを分かち合うことができました。その後も彼はボールを押す練習に励み、ボッチャを楽しむ私たちの仲間です。皆さんも一緒にボッチャを楽しみませんか」

